

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600737	事業の開始年月日	平成27年5月1日
		指定年月日	平成27年5月1日
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホーム みさき豊町		
所在地	(〒252-0305) 神奈川県相模原市南区豊町13-13		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年12月10日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

周辺が平地で歩きやすく、総合病院も近隣にある為、散歩や通院等、出かけやすい環境にあります。建物の横が米軍住宅で土地が開けている為、全居室が日の入りが良く、冬でも温かく過ごせます。
リビングから全居室のドアが見渡せる為、見守りしやすい環境にあります。基本的にご本人様の意志や生活ペースを優先に対応させていただいている為、落ち着いて生活されている方が多いです。反面、集団生活ではあるのでマイペース同士で当たってしまう事もあります。見守りがしやすい環境なのでそのようなトラブルの発見も早く、対応も早く出来ております。
当施設を退去された方の7割近くが、お看取りでの退去です。継続的な医療行為はできませんが、落ち着いて安心して最後まで過ごしていただけるように職員一同、支援させていただいております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年12月16日	評価機関 評価決定日	令和8年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「相模大野」駅からバスで約5分の「豊町」下車、徒歩3分の住宅街にあります。裏手は広大な米軍官舎に隣接しています。法人の社は大阪で、関東地区では神奈川県に3ヶ所のグループホームを運営しています。

<優れている点>

地域の中での生活を大切に考え、散歩や買い物など利用者の外出支援を日常的に行っています。近隣は高低差が少なく公園も多いため、車いすを利用する人も季節を感じながら外気浴や花見を楽しむことができます。日中の職員配置において、シフトを工夫しながら3人体制を維持していることが、こうした一人ひとりの歩みに合わせたきめ細かな対応の支えとなっています。また、外部評価の自己評価作成に当たっては、パート職員も含めた全員が全項目を記入する体制を整えています。管理者がそれらをまとめる過程で、職員一人ひとりが日頃の支援活動を客観的に振り返り、自身の気づきをケアに活かす機会としています。人材育成面では、65項目にわたる詳細なOJTを通じて着実に支援技術の習得に努めています。さらに、人手不足などの緊急事態が発生した際でも、県内3事業所間で互いに協力し合い、安定した運営を継続できる体制を構築しています。

<工夫点>

日報や申し送りなどの業務連絡とは別に、職員間の交流を目的とした「意見ノート」を作成しています。シフトの関係で直接顔を合わせる機会が少ない職員同士でも、このノートを通じて意見を出し合ったり、質問を交わしたりすることができ、チームのコミュニケーションを深める道具として活用しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム みさき豊町
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の増員に伴い、リネンの実践につなげられるようになってきている。今後も更に実行していきたいと思う。	「第二の家族」という法人理念に基づき、「本人意思の尊重」を日常の支援活動における基本方針としています。職員は工作中、利用者の言動から何かに気がついた際、他の人に任せるのではなく「まず自分が動く」ことをモットーとしています。一人ひとりの気づきを即座に行動へ移すことで、利用者の意向を逃さない、安心感のある暮らしの提供に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物や散歩などで少しずつ地域交流を増やしていっている。	近隣の自治会館で月に1~2回開催されている「ほほえみカフェ」に、おやつの時間に合わせて参加しています。地域住民との交流の場を大切にしており、現在はコロナ禍で中断していた音楽やダンスのボランティアによる訪問を再び受け入れられるよう、準備を整えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	足りていないと思われる。人員も増えてきたので行動に移せるようにしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	担当者以外は参加意識が無く、今後は実際の参加も含めて意識改善を行えるようにしたい。	感染症流行の影響により対面での開催は中断していますが、現在は自治会や民生委員、大野南地域包括支援センターに対し、事業所活動報告を文書で送付することで情報共有を図っています。地域とのつながりを維持することに努めており、年明けからの対面による会議の再開に向けて検討を重ねています。	年明けから予定している、対面での運営推進会議の再開が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が対応しているが、必要に応じて職員も対応している。ただ、必要時以外のやり取りがない為、今後、どのような協力関係が必要か話し合いたいと思う。	生活保護を受給している利用者の支援に関わり、相模原市の中央生活支援課や南生活支援課と連携を図っています。また、介護保険課とは利用者の区分変更や更新の手続きにおいて円滑なやり取りに努めています。一昨年には福祉基盤課による運営指導を受けており、行政の指導に基づいた適正な事業所運営の維持に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	委員会を設置、研修を3か月に一度開催して身体拘束防止に努めている。職員同士でチェックする事もある。	入眠剤等の服用については、精神科医の指示と家族の意向に基づき適切に管理しています。また、言葉による拘束といった不適切な関わりを防ぐため、現場リーダーが中心となって職員同士で自身のケアを振り返り、互いに気づきを促し合う体制を構築しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を設置、研修を3か月に一度開催して虐待防止に努めている。職員同士で話し合ったり不明点など管理者に確認する事もある。虐待が見過ごされないように様子観察を気をつけている。	利用者の要望に即座に答えられない場合でも、丁寧な言葉かけを徹底し、安心感を醸成するよう心がけています。職員間の関係性がケアの質を左右するという考えに基づき、管理者はチームワークを重視した職場環境づくりに注力しており、虐待を未然に防ぐ意識の維持に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者が対応している。ご入居者様への権利侵害にならないように傾聴から意思尊重を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が対応している。職員も聞かれた際にわかる範囲で回答したり管理者につないだりしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話連絡時にご意見やご要望があれば伺い、対応させていただいている。その際に出来ること出来ない事をご説明させていただき、ご理解いただいている。	利用者からは食事に関する要望が多く寄せられており、特にカレーや麺類などの献立が好まれています。通常、昼食と夕食は外部提供の献立となっていますが、事業所で調理する朝食と昼食の順番を入れ替えるなどの工夫を行い、利用者の希望に合わせた食事を提供できる機会を設けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	いつでも話しやすい環境作りに努めており、対応してもらっている。	利用者の日々の様子や変化については日報を通じて共有を図っていますが、職員からの自由な意見や提案については「意見ノート」を活用しています。このノートは、日頃の疑問点や改善案を自由に議論できる場として機能しており、職員がより良い環境づくりに向けて自発的に発言できる雰囲気づくりを推進しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者との面識はなく、物足りなさはあるが働きやすい環境づくりに気をつけている。	事業所内の人間関係を安定させるため、管理者は誰もが自由に意見を発信できる環境づくりを心がけています。職員間で活用している通信アプリにも管理者は敢えて参加せず、現場の自主性を尊重したコミュニケーションを後押ししています。また、本社が大阪にあることから、緊急時や人手が必要な際には神奈川県内の3ヶ所の事業所間で相互に融通し合える協力体制を整えています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTを通して指導しており、日常でも気になった際はその都度声掛けして不明点や疑問点を解決できるように心掛けている。	介護手順書に基づいた日常支援の研修を軸として、職員の育成を図っています。65項目に及ぶ具体的な支援方法についてOJTによる指導を行い、それぞれの習得状況を確認シートで把握する仕組みを運用しています。また、実務者研修などの外部研修についても、法人として必要な資格取得やスキルアップを後押しする支援制度を設けています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流はないが興味はあるので今後なにか出来ないか検討し、良い物は取り入れていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	視線を合わせご入居者様のペースに合わせて会話をして安心感を持ってもらうように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様にも安心してご入居者様を任せていただけるように信頼関係を気付けるよう気をつけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	会話や目線など、ご本人の様子やご家族様とお話の中からご意見ご要望を伺い、望まれる形に近づけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	コミュニケーションが難しい方はいるが、理念である「第二の家族」として認めてもらえるような関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	自立支援である事を念頭に、ご本人が生活する上で足りない部分をお手伝いさせていただき事をお伝えし、ご家族様の協力が必要な部分をご協力していただいている。面会を受け入れており、毎月ご本人の様子を描いたお手紙を送らせていただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散歩やお買い物など、出かけてはいるが、過去の馴染みの場所となると移動の関係で難しい事が多い。今までの友人やご家族様の面会は受け入れており、自治会仲間が面会にこられたりしていた。	そろばん塾の講師を務めていた利用者には、現在も毎日教材に触れて練習を続ける時間を設けるなど、これまでの習慣を尊重した支援を行っています。また、俳句仲間との交流を継続している人もおり、個々の社会的なつながりを大切にしています。恒例行事として、二宮神社への初詣や近隣の川堤での花見を毎年実施しており、車いすを使用する人も含めた全員で季節を感じる機会を分かち合えるよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	介護度の違いやコミュニケーション能力の差などに考慮しながら支援している。 時折、男性入居者様同士で揉める事があるが、その都度仲介に入り対応させていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	看取りでの退去が多く、退去後の支援等があまり発生していない。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示の難しい方が多いが、可能な限り把握に努め、尊重できるように努めている。	日頃の何気ない会話だけでなく、表情やしぐさからも言葉に現れない思いを感じ取れるよう、利用者への深い理解につなげています。特に入居前の面談で把握した本人の意向については、環境の変化に伴う不安や不穏な状態を和らげるためにも重要視しています。一人ひとりの希望を可能な限り支援に反映させることで、利用者が安心して自分らしく過ごす環境づくりを推進しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前情報やご家族様からのお話などから把握に努め、支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の記録や行動パターンの把握などの観察をし、把握に努めている。 職員側の思い込みで対応しないように気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様を含め、かかわる人たちの意見を集め、よりよい生活になる様に努めている。ケアマネとも話し合い、プランに活かしてもらっている	利用者や家族の希望を丁寧に聞き取り、介護計画の作成に反映させています。担当者会議を通じてケアの方向性を共有することで、職員全員が統一した対応を行える体制を維持しています。集団生活における一定のルールはありつつも、利用者の思いや生活リズムをできる限り妨げないように、一人ひとりのペースに合わせた暮らしの実現を重視しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	少しの気づきでも共有できるようにしている。また、独りよがりにならないように多視線的に物事をとらえるように気をつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人に対応しながら様子観察を行い、それぞれに合わせた支援を行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源が分かりにくい部分ではあるが、通院や町内会への参加など行っている。 ご本人様やご家族様から要望があれば地域の訪問マッサージを受けたり美容院に通ったりしたことがある。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	掛かりつけの往診医がおり、24時間オンコールで指示をもらったり臨時往診をお願いしたりできる。状況に応じて外部受診や救急搬送のフォローもいただいている。	協力医療機関による内科と精神科の訪問診療を月2回程度実施していますが、入居前から継続してかかりつけ医を受診している利用者もいます。他科の受診が必要な際は、基本的には家族の付き添いによる受診をお願いしています。利用者の小さな変化も迅速に察知するよう努めており、必要に応じて協力医療機関へ相談し指示を仰ぐことで、医療面での安心感を確保しながら日々の支援につなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、訪問看護師が来所しており直接相談や指示を仰いだりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行っており、退院時も提供された情報を職員間や往診医、訪問看護師等と情報共有している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療と連携しながら職員が統一した対応が出来るように準備している。 ご家族様とも話し合いを重ね、安心して最期を迎えられるように支援している。	重度化や終末期の対応については、契約時に指針を説明し、利用者と家族の同意を得ています。24時間の医療対応が必要な場合は事業所での看取りが困難であることも含め、事前に丁寧な共有を図っています。その後も状態の変化に合わせて、揺れ動く家族の心情に寄り添いながらケアの方向性を確認し、穏やかな最期を迎えることが出来るよう看取りの実績を積み重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応がマニュアル化しており、医療と職員間で話し合いが出来ている。 訓練等は行っていないが、OJTの中で伝えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練があり、非常食等の備蓄もある。	年2回、昼間および夜間を想定した避難訓練を実施しています。備蓄については、食料や飲料水を日常的に消費しながら買い足すローリングストック方式を採用し、常に鮮度を保った管理を行っています。また、カセットコンロやランタン、乾電池などの備品もリスト化して管理を徹底しています。今後は、策定済みのBCP（業務継続計画）の職員へのさらなる浸透を図るとともに、地域住民と協力し合えるような体制づくりを模索しています。	現在は毎月の予算内で備蓄食料を補充していますが、在庫が不足している状況にあります。巨大災害が頻発する社会情勢を踏まえ、BCP（業務継続計画）に沿った迅速な対応ができるよう、備蓄体制の再構築に向けた具体的な検討が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	生活歴や性格など把握し、みな同じではなく、それぞれにその時の状況に適した声掛けや対応を心掛けている。	一人ひとりが歩んできた人生に思いを馳せ、年長者への敬意を常に持ちながら日々の生活を支援しています。浴室やトイレの扉を閉めることや、居室を訪問する際のドアノックを励行するなど、当たり前前の礼儀を確実に実践しています。また、利用者宛ての郵便物の取り扱いについても、家族の意向を必ず確認した上で対応を判断するなど、個人の権利とプライバシーの保護を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コチラから尋ねたり、日常からでた要望など留めて置き、可能なタイミングでお応えしたり対応したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人様の動きや意志に合わせて行動しており、他の方との兼ね合いから難しい時は状況を見て優先順位を変えて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様のお気に入りの服や恰好をしてもらい、過ごしていただいている。着方がおかしい時などは声掛けして直ささせていただく事もある。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方にはお手伝いをしていただいている。昼と夜のメニューが配食サービスの為、好きな物を食べたいときはキャンセルや朝食と振替で対応する事も可能。	蕎麦やパスタなどの好みの献立を依頼したり、敬老の日の握りずしを心待ちにしている利用者も多く、食の楽しみを大切にしています。昼食や夕食などは食材会社による提供を基本としています。朝食については職員が買い出し品や食材を工夫して献立を立てており、家庭的な味の提供につなげています。また、野菜を切る、テーブルを拭くといった調理や準備の工程に利用者が参加できる機会を設けることで、生活に彩りを添える支援が実践できるよう心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせた食携帯（トロミや刻み、ミキサー等）行っている。水分、食事量とも記録し、体調に併せてコントロールできるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎週の歯科往診と毎食後に必要に応じて介助で口腔ケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	可能な限りトイレでの排泄を促しているが、尿意や便意が無くなり、定時誘導でも出ない事が増えている。個々の状態に合わせた対応をしている。	トイレで排泄し、その快適さを感じて継続していくことを大切に支援しています。尿意や便意が薄れつつある人に対しても、職員は誘導のタイミングを逃さないよう、表情や動作のわずかな変化に細やかに気を配っています。また、排便が困難な場合には、訪問診療の前に協力医療機関へ状況を伝え、医師の診断や具体的な指示を仰ぐことで、適切な体調管理と安全なケアにつなげています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	なるべく水分を取っていただき、体操などで腸内環境の改善に努めている。医療と連携し、便秘薬の使用をコントロールしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上を目標にお声掛けさせていただいている。ご本人の要望に併せて誘導させていただいているが、拒否が強い方などは無理強いすると虐待とみなかねないため、様子を見ながら誘導を続けている。	ゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤などを活用し、生活の中に季節感を取り入れ、心身ともにリラックスする時間を創出しています。浴槽のまたぎ越しや洗身時の踏ん張りの状態を把握し、シャワー浴への切り替えや職員2人による介助を行うなど、一人ひとりの身体状況に応じた安全な入浴の継続に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転に気をつけつつ、ご本人の様子に合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ダブルチェックを行い、誤薬を防いでいる。お薬情報の紙はファイルされておりいつでも確認できる状態にある。また、変更になった際は医療申し送りに記載され周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	以前に得意だったことや趣味などの把握に努め、ともに楽しめるように工夫している。ご本人の好きな事に併せて楽しめるように工夫している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員増員に伴い、散歩やお買い物に出かけられるようになってきた。ご希望がない方が殆どだが、意識して声掛けして連れ出すようにしている。	天気の良い日は、散歩や買い物に誘うよう心がけています。職員と並んで歩く人や、車いすで移り行く風景を眺める人など、それぞれのペースで外の空気に触れる機会を設けています。日光や風を感じ、季節の花々を愛でる際の嬉しげな表情を写真に収め、家族へ郵送することで、日々の生活の様子を共有することで、家族の安心と喜びにつながっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居契約の中金銭管理は行わないとしているが、ご本人の要望が強い（認知症状による場合も含む）場合はご家族様同意のもと、お渡ししている事もある。使う際は職員同行でお買い物している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様やご家族様の希望に合わせて対応させていただいている。携帯電話を持ち込まれている方もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じたリビングの壁飾りの変更や空調管理、換気を行っている。 トイレ等、変えない方がわかりやすい所は変えないようにしている。	壁に飾られた折り紙の作品は、利用者と職員が教え合いながら作成したもので、温かみのある空間を作っています。衛生面では、換気と消毒を励行し、清潔な環境維持に努めています。また、各階にある約25メートルの廊下を歩行訓練の場としても活用しています。日中は多くの方がリビングでテレビや会話を楽しみながら過ごしていますが、離れた席で静かにお茶を飲む人もいるなど、互いのペースを尊重した居場所の確保を図っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご入居者様でこだわりの強い方が多く、席が変わる時は説明を何度か繰り返すことがある。気に入った場所で過ごせるように支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具を持ち込まれている方もおり、落ち着いて過ごせるように工夫している。 ご本人が破壊してしまったり危険な場合はご家族様と相談の上、交換や撤去などの対応もしている。	居室は一人で静かに過ごせる場所であり、ベッドで休みながら思い思いの時間を過ごすことができるよう配慮しています。職員と一緒にクリーンワイパーで床掃除をしたり、シーツ交換を行ったりする場面もあり、生活の場としての環境維持に共に取り組んでいます。また、自宅から持参した家族写真や孫からの手紙を飾ることで、本人が落ち着ける空間を作るとともに、職員との豊かな会話のきっかけにもつなげています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室の名札など、分かりやすくはしているが、動線上に荷物が多い事があり、その都度、片付けや掃除を入居者様と一緒にしている。		

事業所名	グループホーム みさき豊町
ユニット名	2階

職員の

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)
	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)
	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)
	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)
	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目につくところに理念を掲示してある。日々の業務の中で心掛けて対応するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ以降、交流が途絶えているところがある。回覧板や地域のお祭り等の行事案内などは来ている。お買い物などで近隣に出かけることはある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	特にこちらからの働きかけはない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	開催状況は不明だが個々の利用者様への取組みや現状は職員間で情報共有できている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が対応しており、現場職員は特に関わる事はないが、電話を受けて対応等はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を設置、研修を3か月に一度開催して身体拘束防止に努めている。職員同士でチェックする事もある。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を設置、研修を3か月に一度開催して虐待防止に努めている。職員同士で話し合ったり不明点など管理者に確認する事もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者が対応している。研修としては行われていないが、自身で調べたり管理者に聞いたりする職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が対応している。職員も聞かれた際にわかる範囲で回答したり管理者につないだりしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様、ご家族様のご意見ご要望は申し送られ、日々の業務に反映させている。また、管理者への報告も行い、対応も相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者、リーダーに意見や質問等、話す機会があり、申し伝えている。全てではないが反映してもらっている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者との面識はないが管理者やその上長を通して状況は伝わっていると思う。希望が反映されているとは思えない事もある。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者や上長を通しての情報は把握していると思う。研修はマニュアルがあり各自対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	職員レベルでの同業者交流はない。グループホーム連絡会への参加は指導されている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前情報やご本人との会話で色々伺い、安心して暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	主に管理者が対応しているが、必要に応じて諸君も対応させてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者が主に対応しているが、見極めと対応が早い職員もいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一部、コミュニケーションが難しい方はいるが、日々の関りから残存機能を把握し職員間で共有して実施につなげている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様の方から距離を置かれている方もおりますが、良好にコミュニケーションが取れているご家族様もおります。日々の様子は毎月お手紙お送らせていただいております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人やご家族様からの希望があれば対応させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	介護度の違いやコミュニケーション能力の差などに考慮しながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様や関係各所から要望があれば応じているが職員が関わる事は少ない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話やしぐさ、表情などから希望や意向を推測し他職員と共有し対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前情報やご家族様からのお話などから把握に努め、支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の記録や行動パターンの把握などの観察をし、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネが中心となり行っているが、出勤日数が少なくプラン内容と現実に乖離が出る時がある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	電子記録の導入後、記録のスムーズさと見直しのしやすさが向上している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	結果に結びつきにくい所もあるが、ご家族様とも相談しながら必要な物を揃えたり対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源が分かりにくい部分ではあるが、通院や町内会への参加など行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけの往診医がおり、24時間オンコールで指示をもらったり臨時往診をお願いしたりできる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、訪問看護師が来所しており直接相談や指示を仰いだりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行っており、退院時も提供された情報を職員間や往診医、訪問看護師等と情報共有している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療と連携しながら職員が統一した対応が出来るように準備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応がマニュアル化しており、医療と職員間で話し合いが出来ている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練があり、非常食等の備蓄もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	生活歴や性格など把握し、それぞれに適した声掛けや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	希望や思いを伝えやすい環境づくりに気をつけ、対応できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り対応させていただいているが、他の方との兼ね合いもあり、施設のペースに併せていただいている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で選択できる方など、自立に近い方は好きな身だしなみで過ごされている。そうでない方は職員が介助しで清潔の保持を優先に対応させていただいている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	配食サービスを利用している為、いつでも好きな物を、と言うのは難しい。配膳下膳はお手伝いして下さっており、可能な方には調理もお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせた食携帯（トロミや刻み、ミキサー等）行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎週の歯科往診と毎食後に必要に応じて介助で口腔ケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	徐々に介護度が上がってきており、自立とは逆方向に進んできている。可能な限り、トイレ誘導やリハパン使用に留めるようにはしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	それぞれの排便リズムの把握に努め、下剤は往診医の指示のもと調整している。水分が少ない方への水分摂取の促しも行う。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上を目標にお声掛けさせていただいている。ご自分からご希望あれば対応可能だが、入浴日の間隔が開いている方を優先させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中でも様子を見て横になっていただいたりそのまま椅子でゆっくりしていただいたり、希望に沿って休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ダブルチェックを行い、誤薬を防止している。お薬情報の紙はファイルされておりいつでも確認できる状態にある。また、変更になった際は医療申し送りに記載され周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	以前に得意だったことや趣味などの把握に努め、ともに楽しめるように工夫している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員数やご入居者様の状況にもよるが、可能な限り散歩や日光浴を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居契約の中金銭管理は行わないとしているが、一部、施設側管理で行っている方がいる。ご本人管理はご家族様からも止められている為、立替購入と言う形で一緒に買い物に行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様やご家族様の希望に合わせて対応させていただいている。携帯電話を持ち込まれている方もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じたリビングの壁飾りの変更や空調管理、換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席順は決まっていはいないがご入居者様同士の中で暗黙の了解的に決まっております、それぞれが自分の位置で過ごされている。ソファやトイレ前の椅子など、ご自分で好きな所に移動されている方もいる。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具を持ち込まれている方もおり、落ち着いて過ごせるように工夫している。持ち込みすぎて整理がつかなくなり反対に落ち着きがなくなる時がある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やキッチン等のレイアウトが見通し良くなっており、見守りしやすい環境になっている。収納スペースが足りず、リビングに荷物類が置かれており、動線の邪魔になる事がある。		

2025年度

事業所名 グループホーム みさき豊町
作成日： 令和8年 3月 26日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	感染症や職員不足からの参加者との希望日時が調整がつきにくく、対面での運営推進会議が開催できていない。書面での報告が続いている。	定期的な運営推進会議の開催。	参加予定者との調整連絡。二か月に一回、定期開催する。	4ヶ月
2	35	毎月の予算内で食糧備蓄を行っているが賞味期限の兼ね合いもあり現在は不足している。	人数分×7日分を目安に備蓄を増やす。	予算を少し多めに編成し、買い足していく。	3ヶ月